



令和3年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会代表理事会長 小野寺 俊幸



新年あけましておめでとうござ
います。

組合員並びに役職員の皆様には、
コロナ禍にあってもその苦境にも
負けず、日々営農に更に邁進され
ておられることと存じます。

また、地域農業の振興や地域社
会の発展に向け、日頃より多大な
ご尽力をされていることに対し
ても、改めて敬意と感謝を申し上げ
る次第であります。

昨年の北海道農業は、米の作況
指数が106の「良」、畑作物につ
いては収穫時期に一部地域に降雨
による影響が見られたものの平年
並以上の結果となり、生乳も前年
の実績を超える生産となり、地域
作目によって違いはありますが概

ね良い出来秋を迎えることが出来
たと感じております。

しかしながら、昨年は、新型コ
ロナウイルスとの戦いが長期化し、
今までの日常とは大きく変化した
1年でありました。農業分野にお
いても例外ではなく各種イベント
の自粛、外食・中食の需要減少等
の影響により、各作物の更なる需
給緩和が懸念されているところで
す。今後は作物ごとの実態を踏ま
えた、国産・道産農畜産物の需要
喚起・消費拡大を図るとともに、
外国人技能実習生が入国できない
ことにより、農作業の人材確保に
も大きな影響が出ておりますので、
北海道、全国連とも連携し、JA
グループ北海道としてしっかりと
その対応を図ってまいります。

JAグループ北海道では、昨年
より道民の皆様に対し北海道農業
から行動を起こすことで、農業と
人、農村と都市、生産者と消費者
の関係のあり方を見つめなおして
いただくことを目的として「AG
RI ACTION! HOKKAI

DO（アグリアクション北海道）
と題した情報発信を北海道の支援
もいただき、スタートいたしました。

「AGRI ACTION! HOK
KAI DO」は次の3つのテーマ
を伝えることを目的としておりま
す。

- ① 食料自給率に対する理解促進
と行動変容の喚起
- ② 農業には多様な働き方がある
ということの周知とより多くの
方が農業に携わっていただき、
将来的に農業を仕事の選択肢と
して考えてもらうこと（本業以
外に副業として農業に親しむ人
々を「パラレルノーカー」と命
名）
- ③ 日頃から道産農畜産物を食し
ている道民の皆様に感謝を伝え
ること

本年は第29回JA北海道大会の
実践最終年であることから、この
取組みと協同の力を梃子として
「農業所得の増大」「多様な担い
手の確保・育成」「食と農とでつ
ながるサポーター550万人づく
り」の目標達成に向けて、実践活
動を強化してまいります。

結びになりますが、本年は辛丑

年です。牛は古くから酪農や農業
で人間を助けてくれた大切な動物
でした。大変な農作業を最後まで
手伝ってくれる働きぶりから、丑
年は「我慢（耐える）」、「これか
ら発展する前触れ」というような
年になると伝えられております。

この謂われにあやかり、新型コ
ロナウイルスの1日も早い克服と
皆様のご健勝、本年が豊穰の年と
なりますようご祈念申し上げ、年
頭のご挨拶いたします。

